

学校教育 目標	目標に向かって挑戦し、主体的に学ぶこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	目標に向かって挑戦する力

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【4年：R7大分市標準学力調査】国語、算数、理科の観点別正答率は、どれも市町村及び全国の平均を下回っている。 【5年：R8大分県学力定着状況調査】国語、算数、理科の観点別正答率は、「思考・判断・表現」がどれも市町村及び全国の平均を下回っている。 【6年：R8全国学力・学習状況調査】算数の観点別正答率は、「思考・判断・表現」が市町村及び全国の平均を下回っている。 【単元末テスト】80点以上(1～6年) ○算数の「思考・判断・表現」がどの学年も苦手な傾向にある。 ○若干学習の定着が厳しい状況の学年がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○国語に関しては、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」に若干の課題が見られる。 ○算数に関しては、「変化と関係」に課題が見られる。 ○理科に関しては、「生命・地球」に若干の課題が見られる。 ○どの学年も国語の読解力に課題が見られる。 ○算数の「思考・判断・表現」の領域に課題が見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ドリル2回以上の取組を継続しているが、昨年度3月より始めた主体性を育てるための週末「チャレンジ学習」(ドリルやプリントなど課題を指定しない)により、ドリルを使用する頻度が減少している。家庭学習チェック習慣による調査では、学年に応じた目標時間をほとんどの学年で達成できた。しかし、一定数の家庭では、家庭学習が習慣化されておらず、学力差が生まれている。また、学年が上がるにつれて、やり直しに対しての丁寧な取組に課題が見受けられる。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 言語活動(ペア・グループ学習)を取り入れた学習と見方・考え方を明確にした「書く」活動に加え、書いたものを説明する力の育成に力を入れてきた。この活動を通して多様な考えに出合い、思考力の向上につなげている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 昨年度末の家庭学習の取組について、児童アンケートにおいて、平均学習時間が「10×学年＋10」分は83％達成であった。	

学力に関する達成指標
国語、算数、理科の単元末評価テスト平均80点以上を80％以上、50点未満を5％以下

今後の 具体的 な取組	【授業改善】		【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 「聞く力」を高める工夫と「意見交流」の目的を明確にした場の設定の工夫		
	〈取組内容〉 〈第1期〉 話す人を見て聞く態度を育てる。 学習用具を整える態度を育てる。	〈取組内容〉 「意見交流」の目的を明確にした場の設定の工夫	〈家庭・地域の実践内容〉 学校から配布されている横瀬っ子「学びのすがた」を参考に家庭学習の習慣化に取り組む。
	〈取組指標〉 発達の段階に合わせた聞き方の指標を活用する。	〈取組指標〉 教師のファシリテーターとしての役割を理解し、考えを「広げる」「深める」場面を一日一回以上、授業の中に位置付ける。	〈家庭・地域の実践指標〉 ・各家庭で、学年段階に応じた家庭学習の実践状況を把握し指導する。 ・学期に1回の「家庭学習習慣化ウィーク」で家庭学習の実践状況を把握し指導する。
	〈検証指標〉 ①教師用アンケートにおいて重点的実践を行っているとのA評価60%以上を達成 ②毎月1回以上、部会を開き、「聞く力の育成」「意見交流の場の設定の工夫」の実践について検証改善を行う。		〈家庭・地域の検証指標〉 ※家庭・地域の検証指標となるアンケート項目について、協議をしている。
	【授業改善以外の学力向上の実践】 ・個に応じた指導の充実を図るため、各学年部において、国語・算数を中心に教科担任制を取り入れる。 ・デジタルドリルを効果的に活用する。 ・学級懇談会や保健だより等を通して、基本的学習・生活習慣(特にPC、携帯電話、ゲーム機等の適正な利用)の定着を図る。		